

## 土壌条件に応じたサトイモの推進と生産安定

対象者 サトイモ生産者グループ

### 【普及活動のねらい・対象】

甲賀管内のサトイモは平成 25 年度より本格化して 15 戸で 43 a の栽培がありました。このうち、甲賀市甲南町の粘質田では適正に管理すれば栽培可能であることが確認され、獣害にも比較的強いので、今まで野菜を栽培しにくかった土壌条件のところや中山間地での新規品目として期待が持てます。

また、J A こうかは忍(しのび)シリーズの新品目としてサトイモを推進する方向を打ち出していました。今年度は J A とともに、栽培こよみを活用した新規取り組み者の掘り起こしを行うとともに、現地巡回や栽培研修会を開催して技術向上を図り、出荷に結び付けようとなりました。

### 【普及活動の経過】

#### 1. 栽培技術向上、栽培意欲向上のための活動

##### (1) 栽培予定者の把握、種いも確保指導

25 年度末(26 年 3 月)に J A 担当者より栽培予定者を聞き取り、巡回して栽培面積を確認するとともに、栽培こよみ案を配布して圃場準備と種いも確保を促しました。

##### (2) 集合研修と圃場巡回を組み合わせて



収穫期をむかえたサトイモ

- ①4 月 16 日には室内研修会を開催し、栽培技術指導を行うとともに、J A がまとめた栽培予定者と面積の情報入手しました。
- ②初めて栽培する生産者には芽出しや定植について個別指導を行いました。
- ③6 月 13 日には現地研修会を開催し、その後も現地巡回を継続して生育状況を確認しました。
- ④ J A 担当者とともに、J A おうみ富士管内を視察し、集出荷や機械化について研修しました。

#### 2. 出荷推進のための活動

J A と企画した出荷会議には栽培者が多数出席され、手ごたえを感じました。この会議での研修材料として、圃場巡回時の写真を示すことにより管内全体の様子をつかむことができ、相互に刺激を受けてもらうことができました。事後のアンケートでは、多くの農家が出荷を希望され、その後巡回して出荷指導を行いました。



出荷会議

### 【普及活動の成果】

甲賀管内のサトイモ栽培は 24 戸、78.6a となりました。

大半が農産物直売所向け出荷となりましたが、一部、生協向け出荷が実現しました。

経費のうち種苗費の占める割合が高いことと、手作業が中心となる収穫と調整作業は労働負担を招き、労働時間が長いことが課題となりました。

今後は、種いも切片育苗の導入と定植・収穫等作業の機械化を組み合わせ、経費削減、省力化によりサトイモの生産拡大を目指していきたいと考えています。(宇野)